

SANADA et al  
March 24, 2004  
BSKB, LLP  
703-205-8000  
1188-0117P  
1042

日 本 国 特 許 庁  
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日                      2 0 0 2 年 1 0 月 1 6 日  
Date of Application:

出 願 番 号                      特 願 2 0 0 2 - 3 0 1 1 9 1  
Application Number:  
[ST. 10/C] :                      [ J P 2 0 0 2 - 3 0 1 1 9 1 ]

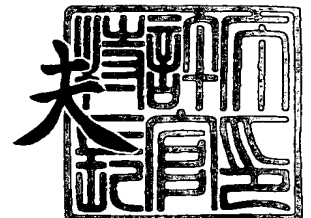
出 願 人                      三井化学株式会社  
Applicant(s):



2 0 0 4 年    2 月 2 6 日

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

今 井 康 夫



出証番号    出証特 2 0 0 4 - 3 0 1 3 9 7 1



【書類名】 特許願

【整理番号】 P0001524

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 B41N 1/14

【発明者】

    【住所又は居所】 千葉県袖ヶ浦市長浦 5 8 0 - 3 2 三井化学株式会社内

    【氏名】 真田 隆幸

【発明者】

    【住所又は居所】 千葉県袖ヶ浦市長浦 5 8 0 - 3 2 三井化学株式会社内

    【氏名】 小出 哲裕

【発明者】

    【住所又は居所】 千葉県袖ヶ浦市長浦 5 8 0 - 3 2 三井化学株式会社内

    【氏名】 鈴木 祐子

【発明者】

    【住所又は居所】 千葉県袖ヶ浦市長浦 5 8 0 - 3 2 三井化学株式会社内

    【氏名】 高野 弘二

【発明者】

    【住所又は居所】 千葉県袖ヶ浦市長浦 5 8 0 - 3 2 三井化学株式会社内

    【氏名】 内藤 真哉

【特許出願人】

    【識別番号】 000005887

    【氏名又は名称】 三井化学株式会社

    【代表者】 中西 宏幸

【手数料の表示】

    【予納台帳番号】 005278

    【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

    【物件名】 明細書 1

    【物件名】 要約書 1



【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 平版印刷用の原版

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

湿し水を用いる平版印刷用の原版において、親水性ポリマー、架橋剤、光吸収剤及び尿素からなる感光性樹脂組成物を架橋してなる親水性樹脂感光層を有することを特徴とする平版印刷用の原版。

【請求項 2】

湿し水を用いる平版印刷用の原版において、親水性ポリマー、架橋剤、光吸収剤、疎水性ポリマー及び尿素からなる感光性樹脂組成物を架橋してなる親水性樹脂感光層を有することを特徴とする請求項 1 に記載の平版印刷用の原版。

【請求項 3】

前記親水性樹脂感光層が、光の照射により照射部表面の親水性が親インク性に変化する性質を有することを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の平版印刷用の原版。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は印刷用の原版、特に湿し水を用いる平版印刷用の原版に関する。さらに詳しくは、近赤外領域の光に感光し、明室でも取り扱うことができ、版に直接レーザー光で描画でき、且つ現像や拭き取り操作が不要で、種々の印刷特性に優れた平版印刷用の原版に関する。

【0002】

【従来の技術】

平版印刷、所謂オフセット印刷は紙への印刷に於いて主流であり、広く用いられている。従来このオフセット印刷で用いられる刷版は、印刷原稿を一旦紙等に出力した後、この原稿を写真撮影して版下フィルムを作成し、この版下フィルムを通して感光性の刷版を露光、現像することにより作られていた。

【0003】

しかし、近年情報のデジタル化とレーザーの高出力化により刷版の作成に於いて上記した版下フィルムを使用せずに、レーザーを走査して直接刷版に描画して版を作成する方法、所謂 C T P (Computer To Plate) 法が実用に供されている。

#### 【 0 0 0 4 】

現在実用化されている C T P 用の原版としては、5 0 0 n m 前後の可視光による光反応を用いたフォトリソ型型の刷版があるが、この版は勿論現像を必要とするだけでなく、解像度が劣り、又明室での取り扱いができないという問題点がある。

#### 【 0 0 0 5 】

そして、このような問題点を改良するために、特開平 7 - 2 0 6 2 9 号公報には、近赤外線領域の光による熱反応を用いた平版印刷用の原版が開示され、該版は既に市場に供されている。しかしこの版は明室で取り扱うことができ、且つ解像度も優れるが、依然として現像処理を必要としている。

#### 【 0 0 0 6 】

そこで、湿式現像処理の不要な平版印刷用の原版として、特開平 9 - 1 2 7 6 8 3 号公報には、露光領域で自己分散性樹脂粒子が溶融・融着して画像を形成する原版が開示されている。この原版は感光層の非画線部が湿し水で除去が可能な原版であり、いわゆる印刷機上の現像ができ、専用の現像機を必要とはしない。しかし、印刷機上で現像した場合、湿し水やインクを汚染するだけでなく、保存時の湿度管理に厳しさが要求されると言う欠点を有する。

#### 【 0 0 0 7 】

湿式現像も印刷機上現像も必要としない平版印刷用の原版として、米国特許 3 4 7 6 9 3 7 号には、独立し、且つ接触関係にある疎水性熱可塑性樹脂微粒子を含有する親水性樹脂層を有し、熱により疎水性熱可塑性樹脂微粒子が融着し親水性が変化する原版が開示されている。しかし、この原版は特に光照射で描画した際は感度が低く、且つ親水性樹脂層は強度が弱く耐刷性に劣る。又、着インク性を改善するために疎水性熱可塑性樹脂の量を増やすと簡単に地汚れしてしまうという欠点を有する。

## 【 0 0 0 8 】

更に、特開平 7 - 1 8 5 0 号公報には、親水性樹脂中に該親水性樹脂中の親水基と反応する親油性物質を含むマイクロカプセルを含有した感光層からなる原版であって、光の照射によりマイクロカプセルを破壊して親水性樹脂を親油化する技術が開示されている。しかしこの方法は解像度を上げたり、地汚れを防止するにはマイクロカプセルの粒径を非常に小さくしなければならず、製造が困難であった。

## 【 0 0 0 9 】

更に、特開平 7 - 3 1 4 9 3 4 号公報には、チタン又はチタン酸化物等の、無機系の光吸収層の上にシリコン樹脂の撥インク層を積層した構成の原版も開発され市販されている。しかしこの原版はシリコン樹脂層がインクをはじき非画線部となり、近赤外光の照射により画線部が形成されるが、光の照射だけでは照射部のシリコン樹脂層は除去されず、印刷に際しては光を照射した部分のシリコン樹脂を除去するために拭き取り操作を必要とする。このシリコン樹脂の拭き取りが不十分な場合は照射部にインクが十分に付着せず、画線部に欠陥が生じ、うまく印刷できない。

## 【 0 0 1 0 】

そこで本発明者らは親水性ポリマー、架橋剤及び光吸収剤からなる感光性樹脂組成物、あるいは親水性ポリマー、架橋剤、光吸収剤及び疎水性ポリマーからなる感光性樹脂組成物を架橋した親水性樹脂感光層からなり、光の照射により、親水性から親インク性に変化する平版印刷用の原版を国際公開第 0 1 / 0 8 3 2 3 4 号に開示した。この原版は現像や拭き取り操作が不要で、且つ光照射部の表面だけが変化するため感度、解像度に優れている。この版のさらなる性能向上のために、親水層の保水性を向上させることが望まれる。

## 【 0 0 1 1 】

## 【発明が解決しようとする課題】

本発明の目的は、明室で取り扱うことができ、現像や拭き取り操作が不要で、且つ親水性に優れ、更に印刷時の湿し水量の幅の広いた湿し水の量を減らしても地汚れし難い C T P 用の原版を提供することである。

## 【 0 0 1 2 】

## 【課題を解決するための手段】

本発明者らは鋭意検討した結果、尿素を添加した感光性樹脂組成物を架橋して親水性樹脂感光層を形成することによって上記の目的を達成することができることを見出し、本発明に到達した。すなわち、本発明は以下の通りである。

## 【 0 0 1 3 】

(1) 湿し水を用いる平版印刷用の原版において、親水性ポリマー、架橋剤、光吸収剤、及び尿素からなる感光性樹脂組成物を架橋してなる親水性樹脂感光層を有することを特徴とする平版印刷用の原版。

(2) 湿し水を用いる平版印刷用の原版において、親水性ポリマー、架橋剤、光吸収剤、疎水性ポリマー及び尿素からなる感光性樹脂組成物を架橋してなる親水性樹脂感光層を有することを特徴とする前記(1)に記載の平版印刷用の原版。

(3) 前記親水性樹脂感光層が、光の照射により照射部表面の親水性が親インク性に変化する性質を有することを特徴とする前記(1)または(2)に記載の平版印刷用の原版。

## 【 0 0 1 4 】

## 【発明の実施の形態】

以下に本発明の平版印刷用の原版について詳細に説明する。本発明の平版印刷用の原版に於いては基板に水に不溶性の親水性樹脂からなる感光層を設けてなる。この際用いられる基板の具体例としては、アルミ板、鋼板、ステンレス板、銅板等の金属板やポリエステル、ナイロン、ポリエチレン、ポリプロピレン、ポリカーボネート、ABS樹脂等のプラスチックフィルムや紙、アルミ箔ラミネート紙、金属蒸着紙、プラスチックフィルムラミネート紙等が挙げられる。これらの基材の厚さは特に制限はないが通常100～400 $\mu$ m程度である。又、これらの基材は密着性の改良等のために酸化処理、クロメート処理、サンドブラスト処理、コロナ放電処理等の表面処理を施してもよい。

## 【 0 0 1 5 】

次に本発明の水に不溶性の親水性樹脂からなる感光層に関して詳しく説明する

。本発明の平版印刷用の原版は湿し水を用いるオフセット印刷用の無現像型の版であり、感光層の光照射部以外は非画像部になる。従って本発明の感光層は親水性で、且つ水に溶けないことが必要である。そして、本発明の原版は光を照射した部分の該感光層はアブレーションにより取り除かれることはなく、感光層の親水性が親インク性に変化する。そのため、本発明の原版は光の照射後に現像や拭き取り等が不要となるが、上記したような特性の変化を具現化するために、本発明の感光層は、親水性ポリマー、架橋剤、光吸収剤及び尿素を含有してなる感光性樹脂組成物、好ましくは親水性ポリマー、架橋剤、疎水性ポリマー、光吸収剤及び尿素を含有してなる感光性樹脂組成物を架橋してなるものである。親水性ポリマーは架橋することにより水に不溶となる。

#### 【 0 0 1 6 】

本発明の感光層に用いられる親水性ポリマーは、親水性基及び架橋剤と反応する官能基（架橋官能基）を有する。親水性ポリマーの親水性基としては、例えば、水酸基、アミド基、アミノ基、スルホンアミド基、オキシメチレン基、オキシエチレン基等、更にカルボキシル基、スルホン酸基、ホスホン酸基等の酸性基やこれら酸性基のアルカリ金属塩やアミン塩等が挙げられる。

#### 【 0 0 1 7 】

又架橋官能基としては、水酸基、アミド基、アミノ基、イソシアナート基、グリシジル基、オキサゾリン基、メチロール基、及びメチロール基とメタノールやブタノール等のアルコールとが縮合したメトキシメチル基やブトキシメチル基等、更にカルボキシル基、スルホン酸基、ホスホン酸基等の酸性基やこれら酸性基のアルカリ金属塩やアミン塩等が挙げられる。

#### 【 0 0 1 8 】

親水性ポリマーのより具体的な例としては、水溶性の以下のポリマーが挙げられる。即ち、セルロース類、ゼラチン、前記した親水性基や架橋官能基を有する不飽和酸及びその誘導体類やN-ビニルアセトアミド、N-ビニルホルムアミド、酢酸ビニル、ビニルエーテル等を重合、共重合してなるポリマー及びこのポリマーの加水分解ポリマー等である。

#### 【 0 0 1 9 】



前記した親水性基や架橋官能基を有する不飽和酸及びその誘導体の具体例としては、水酸基を有する不飽和酸誘導体としては、ヒドロキシエチル（メタ）アクリレート、ポリエチレングリコールモノ（メタ）アクリレート、ヒドロキシプロピル（メタ）アクリレート、ポリプロピレングリコールモノ（メタ）アクリレート、ヒドロキシブチル（メタ）アクリレート、メチロール（メタ）アクリルアミドや、該メチロール（メタ）アクリルアミドとメチルアルコールやブチルアルコールとの縮合物であるメトキシメチル（メタ）アクリルアミド、ブトキシメチル（メタ）アクリルアミド等が挙げられる。

#### 【0020】

アミド基を有する不飽和酸誘導体としては無置換又は置換（メタ）アクリルアミド、無置換又は置換イタコン酸アミド、無置換又は置換フマル酸アミド、無置換又は置換フタル酸アミド、N-ビニルアセトアミド、N-ビニルホルムアミド等が挙げられる。無置換又は置換（メタ）アクリルアミドのより具体例としては、（メタ）アクリルアミド、N-メチル（メタ）アクリルアミド、N，N-ジメチル（メタ）アクリルアミド、N-エチル（メタ）アクリルアミド、N，N-ジエチル（メタ）アクリルアミド、N，N-ジメチルアミノプロピル（メタ）アクリルアミド、N-イソプロピル（メタ）アクリルアミド、ダイアセトン（メタ）アクリルアミド、メチロール（メタ）アクリルアミド、メトキシメチル（メタ）アクリルアミド、ブトキシメチル（メタ）アクリルアミド、スルホン酸プロピル（メタ）アクリルアミド、（メタ）アクリロイルモルホリン等が挙げられる。前記イタコン酸アミド等の二塩基酸アミドの場合は一方のカルボキシル基がアミド化されたモノアミドであっても良く、両方のカルボキシル基がアミド化されたジアミドであっても良い。更に、グリシジル基を有する不飽和酸誘導体としては、グリシジル（メタ）アクリレート、パラビニルフェニルグリシジルエーテル等が挙げられる。

#### 【0021】

カルボキシル基を有する不飽和酸としては、（メタ）アクリル酸等の一塩基不飽和酸、イタコン酸、フマル酸、マレイン酸及びその無水物等の二塩基不飽和酸やこれら二塩基不飽和酸のモノエステル、モノアミド等が、挙げられる。

## 【0022】

又、スルホン酸基を有する不飽和酸としては、スルホエチル（メタ）アクリレート、（メタ）アクリルアミドメチルプロパンスルホン酸、ビニルスルホン酸、ビニルメチルスルホン酸、イソプロペニルメチルスルホン酸、（メタ）アクリル酸にエチレンオキシド、又はプロピレンオキシドを付加したアルコールの硫酸エステル、（メタ）アクリロイロキシエチルスルホン酸、モノアルキルスルホコハク酸エステルとアリル基を有する化合物とのエステル、モノアルキルスルホコハク酸エステルとグリシジル（メタ）アクリレートとの反応生成物等が、ホスホン酸基を有する重合性不飽和モノマーとしては、ビニルリン酸、リン酸モノ（2-ヒドロキシエチル）（メタ）アクリレート、リン酸モノアルキルエステルのモノ（2-ヒドロキシエチル）（メタ）アクリレート等が挙げられる。

## 【0023】

これらのカルボキシル基、スルホン酸基やホスホン酸基はアルカリ金属、アルカリ土類金属やアミン類で中和されていても良い。中和に用いられるアルカリ金属としては、ナトリウム、カリウム、リチウム等が、アルカリ土類金属としては、カルシウム、マグネシウム等が、及びアミンとしては、アンモニア、メチルアミン、ジメチルアミン、トリメチルアミン、エチルアミン、ジエチルアミン、トリエチルアミン、モノエタノールアミン、ジエタノールアミン、トリエタノールアミン等が挙げられる。

## 【0024】

重合するに際しては、前記した不飽和酸及びその誘導体と共重合可能なモノマーを併用しても良い。共重合可能なモノマーとしては、例えばメチル（メタ）アクリレート、エチル（メタ）アクリレート、ブチル（メタ）アクリレート、2-エチルヘキシル（メタ）アクリレート、グリシジル（メタ）アクリレート、ジメチルアミノエチル（メタ）アクリレート、ジエチルアミノエチル（メタ）アクリレート、フェノキシエチル（メタ）アクリレート、ベンジル（メタ）アクリレート、イソプロニル（メタ）アクリレート、アダマンチル（メタ）アクリレート、シクロヘキシル（メタ）アクリレート、スチレン、 $\alpha$ -メチルスチレン、アクリロニトリル、メタクリロニトリル、酢酸ビニル等が挙げられる。尚、前記の記述

に於いて、(メタ) アクリルアミドや(メタ) アクリル酸等に於ける(メタ) アクリル、(メタ) アクリロイル、更に(メタ) アクリレート等はアクリルとメタクリル、アクリロイルとメタクリロイル、アクリレートとメタクリレートの両者を意味する。

#### 【0025】

本発明の親水性ポリマーを架橋するのに用いられる架橋剤としては、前記親水性ポリマーと架橋反応して親水性ポリマーを水に不溶性にすることにより親水性樹脂感光層の耐刷性を向上させるものであればよく、例えば、親水性ポリマー中の架橋性官能基である水酸基、カルボキシル基、スルホン酸基、グリシジル基、場合によってはアミド基と反応する公知の多価アルコール化合物類、多価カルボン酸化合物やその無水物類、多価グリシジル化合物類、多価アミン、多価イソシアネート化合物やブロックイソシアネート化合物、エポキシ樹脂、オキサゾリン樹脂、アミノ樹脂等が挙げられる。

#### 【0026】

本発明に於いては前記した架橋剤の中でも、硬化速度と感光性樹脂組成物の室温での安定性や感光層の親水性と耐刷性のバランス等から公知の種々の水性エポキシ樹脂、公知のオキサゾリン樹脂、公知のアミノ樹脂、水性ブロックイソシアネート化合物が好ましい。アミノ樹脂としては、公知のメラミン樹脂、尿素樹脂、ベンゾグアナミン樹脂やグリコールウリル樹脂等やこれら樹脂の変性樹脂、例えばカルボキシ変性メラミン樹脂等が挙げられる。又、架橋反応を促進するために、前記したエポキシ樹脂を用いる際には3級アミン類を、アミノ樹脂を用いる場合は、パラトルエンスルホン酸、アルキルベンゼンスルホン酸類、塩化アンモニウム等の酸性化合物を併用しても良い。

#### 【0027】

上記架橋剤の主な役割は、前記親水性ポリマーを架橋し親水性ポリマーを水に不溶性にすることであるが、さらに架橋剤が自己重合性を有する場合には、感光層において該架橋剤が親水性ポリマー中に島相を形成し、感光層中の光吸収剤が光を吸収剤して光エネルギーを熱エネルギーに変換した際、発生した熱により島相が発泡し、光照射部表面の親水性を親インク性に変化させることも含まれる。

## 【 0 0 2 8 】

本発明の感光性樹脂組成物には、光の照射により照射部表面の親水性が親インク性に変化しやすいように疎水性ポリマーを用いることが望ましい。疎水性ポリマーとしては、版の感度、光照射した際の親インク化のしやすさ等から動的光散乱法で測定した平均粒子径が  $0.005 \sim 0.5 \mu\text{m}$  の水分散疎水性樹脂が好ましく、 $0.01 \sim 0.2 \mu\text{m}$  のものが更に好ましい。水分散疎水性樹脂とは、微細なポリマー粒子と必要に応じて該粒子を覆う保護剤とからなる粒子を水性液に分散させた疎水性ポリマーを意味し、不飽和モノマーを乳化重合や懸濁重合することによって作られた疎水性ポリマー、特に酸性基を有する疎水性ポリマー、又は該ポリマーの有機溶剤溶液を必要ならば酸性基を中和したり、分散安定剤を加えて水中に分散したポリマー、必要ならば有機溶剤を溜去したポリマー等が挙げられる。水分散疎水性樹脂は、より具体的には例えば、ビニルポリマー系ラテックス、共役ジエンポリマー系ラテックス、アクリル系ラテックス、水分散ポリウレタン樹脂、水分散エポキシ樹脂等が挙げられる。

## 【 0 0 2 9 】

上記疎水性ポリマーの役割は、感光層において該疎水性ポリマーが親水性ポリマー中に島相として形成され、感光層中の光吸収剤が光を吸収剤して光エネルギーを熱エネルギーに変換した際、発生した熱により島相の疎水性ポリマーが熱的に溶融・融着し、光照射部表面の親水性を親インク性に変化させることであると推定される。この溶融・融着による親インク性への変化を効率よく行わせるには、疎水性ポリマーの平均粒子径が前記したように  $0.005 \sim 0.5 \mu\text{m}$  であることが好ましい。この粒子径の範囲内であれば、発生した熱で疎水性ポリマーが溶融・融着しやすく、感度に優れ、感光層の親水性が低下することもない。

## 【 0 0 3 0 】

本発明の感光層に上記疎水性ポリマーを使用する場合、疎水性ポリマー量は光照射部の親インク化の点からは多い方が好ましいが、多くなり過ぎると地汚れを起こし好ましくない。この点から本発明に於ける感光性樹脂組成物中の疎水性ポリマー量は、固形分として 70 重量%以下であることが好ましい。

## 【 0 0 3 1 】

本発明の感光層に用いられる光吸収剤としては、光を吸収して熱を生じるものであればよく、光の照射に際しては光吸収剤が吸収する波長域の光を適宜用いればよい。光吸収剤の具体例としては、シアニン系色素、ポリメチン系色素、フタロシアニン系色素、ナフトロシアニン系色素、アントラシアニン系色素、ポルフィリン系色素、アゾ系色素、ベンゾキノン系色素、ナフトキノン系色素、ジチオール金属錯体類、ジアミンの金属錯体類、ニグロシン等の各種色素、及びカーボンブラック等が挙げられる。

#### 【0032】

これらの色素に於いては、明室での取り扱い性、露光機に用いる光源の出力や使い易さの点から750～1100nmの領域の光を吸収する色素が好ましい。色素の吸収波長域に関しては置換基や $\pi$ 電子の共役系の長さ等により変えることが出来る。これらの光吸収剤は感光性樹脂組成物が含まれる水溶液に溶解していても、又分散していても良い。前記した光吸収剤の中では、本発明に於いては親水性の光吸収剤が好ましい。

#### 【0033】

本発明では、親水性樹脂組成物に尿素を添加することが重要な特徴である。尿素を添加することにより感光層の親水性が向上する。尿素の添加による親水性向上効果発現の理由は明らかではないが、尿素の添加により、親水性に優れ、PS版並みに水量を減らしても地汚れしない、現像や拭き取り操作が不要のCTP用の版に用いられる印刷用原版が得られる。

#### 【0034】

親水性樹脂組成物への尿素の添加量は0.5～25wt%であることが好ましく、さらに1～20wt%であることが好ましい。添加量がこの範囲内であれば、親水性向上効果が現われ、耐刷性が悪化することがない。

#### 【0035】

さらに、本発明の感光性樹脂組成物には、印刷条件に対する安定性を広げるため、種々の界面活性剤を添加することが望ましい。前記界面活性剤としては、アニオン性界面活性剤、カチオン性界面活性剤、非イオン性界面活性剤及び両性界面活性剤が挙げられる。また、感光性樹脂組成物水溶液の塗布性を良化するため

、ハジキ防止剤、レベリング剤等の添加剤を添加しても良い。

#### 【0036】

本発明の水に不溶の親水性樹脂からなる感光層は、親水性ポリマー、架橋剤、光吸収剤及び尿素を含有する感光性樹脂組成物が含まれる溶液、好ましくは親水性ポリマー、架橋剤、疎水性ポリマー、光吸収剤及び尿素を含有する感光性樹脂組成物が含まれる溶液を基板に塗布し、乾燥、硬化すればよい。塗布する方法としては塗布する溶液の粘度や塗布速度等によって異なるが、通常例えば、ロールコーター、ブレードコーター、グラビアコーター、カーテンフローコーター、ダイコーターやスプレー法等を用いれば良い。塗布溶液を塗布した後、加熱して乾燥及び親水性ポリマーの架橋を行う。加熱温度は通常50～200℃程度である。

#### 【0037】

本発明の平版印刷用の原版は光吸収剤の吸収波長域の光、例えば750～1100nmの領域の光を照射すると、光吸収剤が該光を吸収して発熱する。この発熱により感光層の光照射部は、自己重合した架橋剤が発泡したり、疎水性ポリマーが熱融着して親水性が失われ親インク化する。この際、光の照射量を大きくし過ぎたり、又光吸収剤を多量に添加したりすると感光層が分解、燃焼等によって除去、融除されてしまい、照射部の周辺に分解物が飛散するので、このようなことは避けなければならない。

#### 【0038】

このように本発明の平版印刷用の原版は光を照射した部分の感光層の親水性が親インク性に特性が変化し、現像や拭き取り操作をしなくても光の照射部にはインクが付着し、印刷が可能となる。

#### 【0039】

本発明の平版印刷用の原版の光照射に用いられる光の波長は特に限定はなく、光吸収剤の吸収波長域に合致する光を用いればよい。照射に際しては照射速度の点から収束光を高速で走査するのが好ましく、使用し易く、且つ高出力の光源が適しており、この点から照射する光としてはレーザー光、特に750～1100nmの波長域の発振波長を有するレーザーの光が好ましく、例えば830nm

の高出力半導体レーザーや1064nmのYAGレーザーが用いられる。これらのレーザーを搭載した露光機は所謂サーマル用プレートセッター（露光機）として既に市場に供されている。

#### 【0040】

##### 【実施例】

##### [実施例1]

（親水性ポリマーP-1の合成）

1000ccのフラスコに水400gを入れ、窒素をバブリングして溶存酸素を除去した後、80℃に昇温した。窒素ガスを上記フラスコに流しながら、そこにアクリルアミド90.3g、N-ビニルホルムアミド11.3g、ヒドロキシエチルメタクリレート18.4g、水130gからなるモノマー溶液と過硫酸カリ1.0gを水100gに溶解した開始剤の水溶液を、内温を80℃に維持しながら、別々に2時間に渡り連続滴下した。滴下終了後80℃で3時間重合を続けた。最後に水50gを加え、親水性ポリマーP-1の15%水溶液を合成した。

#### 【0041】

（平版印刷用の原版の作成）

厚さ0.2mmのポリエステルフィルムに下記組成（単位：質量部とwt%、以下同様）からなる感光性樹脂組成物が含まれる水溶液をドクターブレードを用いて塗布した後、120℃で30分間乾燥し、2μmの膜厚の感光層を成膜して平版印刷用の原版を作成した。

上記親水性ポリマーP-1の水溶液（固形分15%）400部

メチル化メラミン樹脂（三井サイテック（株）製サイメル<sup>TM</sup>385、固形分80%）50部

シアニン色素水溶液（日本感光性色素（株）製IR-125、固形分5%）100部

アニオン性界面活性剤（第一工業製薬（株）製ネオコール<sup>TM</sup>YSK、固形分70%）0.15部

尿素水溶液（固形分15%）70部（親水性樹脂組成物中で固形分として9.1%）

## 【 0 0 4 2 】

## (描画)

この原版に波長 8 3 0 n m の半導体レーザー光を 3 5 0 m J / c m<sup>2</sup> の照射エネルギー密度となるように集光しながら走査照射して、2 0 0 線 / インチの画像情報の描画を行った。

## 【 0 0 4 3 】

## (印刷評価)

この露光した版をオフセット印刷機（三菱重工製ダイヤ 1 F - 4）にセットし、湿し水として（株）日研化学研究所製の H 液アストロマーク 3 の 2 % 水溶液、インクとして東洋インキ製造（株）製のハイエコー<sup>TM</sup> S O Y を使用して印刷を行った。その結果、湿し水量を P S 版並みの、印刷機の実力の 5 0 % に減らしても光の未照射部にはインクが全く付かず、一方、照射部にはインクが十分に付着し、描画した画像が印刷用紙上に再現された。5 千枚印刷後でも未照射部にはインクが全く付かず、照射部へのインク付着性も損なわれなかった。

## 【 0 0 4 4 】

## [実施例 2]

実施例 1 に於いて、基板をポリエステルフィルムから、接着性向上のため予めプライマーとして 1 μ m の厚さのウレタン樹脂（三井化学（株）製オレスター<sup>TM</sup> U D 3 5 0）を塗布した厚さ 0. 3 m m のアルミニウム板に置き換えた以外は実施例 1 と同様にして平版印刷用の原版を作り、描画及び印刷評価を行なったところ、P S 版並みに湿し水量を減らしても光の未照射部にはインクが全く付かず、一方、照射部にはインクが十分に付着し、描画した画像が印刷用紙上に再現された。1 万枚印刷後でも未照射部にはインクが全く付かず、照射部へのインク付着性も損なわれなかった。

## 【 0 0 4 5 】

## [実施例 3]

実施例 1 の親水性ポリマーをポリアクリルアミド水溶液（固形分 1 5 %）に代え、乾燥を 1 2 0 ℃ で 2 時間にした以外は実施例 1 と同様にして印刷原版を作り、描画および印刷評価を行なったところ、P S 版並みに湿し水量を減らしても光



の未照射部にはインクが全く付かず、一方、照射部にはインクが十分に付着し、描画した画像が印刷用紙上に再現された。

#### 【0046】

##### [実施例 4]

実施例 1 の感光性樹脂組成物を下記組成に代えた以外は実施例 1 と同様にして平版印刷用の原版を作った。

前記親水性ポリマー P-1 の水溶液（固形分 15%） 267 部

メチル化メラミン樹脂（三井サイテック（株）製サイメル<sup>TM</sup>385、固形分 80%） 12.5 部

水分散ウレタン樹脂（三井化学（株）製オレスター<sup>TM</sup>UD350、固形分 40%） 125 部

シアニン色素水溶液（日本感光性色素（株）製 IR-125、固形分 5%） 100 部

アニオン性界面活性剤（第一工業製薬（株）製ネオコール<sup>TM</sup>YSK、固形分 70%） 0.15 部

尿素水溶液（固形分 15%） 70 部（親水性樹脂組成物中で固形分として 9.1%）

#### 【0047】

この版に波長 830 nm の半導体レーザー光を 200 mJ/cm<sup>2</sup> の照射エネルギー密度となるように集光しながら走査照射して、200 線/インチの画像情報の描画を行い、印刷評価を行ったところ、湿し水量を PS 版並みに減らしても光の未照射部にはインクが全く付かず、一方、照射部にはインクが十分に付着し、描画した画像が印刷用紙上に再現された。

#### 【0048】

##### [比較例 1]

実施例 1 の尿素を添加しないこと以外は実施例 1 と同様にして平版印刷用の原版を作り、描画および印刷評価を行なったところ、湿し水量が印刷機の能力の 70% と多いときには光の未照射部にはインクが全く付かず、一方、照射部にはインクが十分に付着し、描画した画像が印刷用紙上に再現されたが、湿し水量を P

S版並みの、印刷機の能力の50%に減らすと地汚れが発生した。

【0049】

【発明の効果】

本発明の平版印刷用の原版を用いれば、現像や拭き取り等の工程が不要で、且つ、親水性に優れ、地汚れしない平版印刷版を提供することができる。

【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 明室で取り扱うことができ、現像や拭き取り操作が不要で、且つ親水性に優れ、湿し水の量を減らしても地汚れし難い C T P 用の原版を提供する。

【解決手段】 平版印刷用の原版は、湿し水を用いる平版印刷用の原版であって、親水性ポリマー、架橋剤、光吸収剤、及び尿素からなる感光性樹脂組成物を架橋してなる親水性樹脂感光層を有することを特徴とする。平版印刷用の原版は、親水性ポリマー、架橋剤、光吸収剤、疎水性ポリマー及び尿素からなる感光性樹脂組成物を架橋してなる親水性樹脂感光層を有することが好ましい。

【選択図】 なし

認定・付加情報

特許出願の番号	特願 2 0 0 2 - 3 0 1 1 9 1
受付番号	5 0 2 0 1 5 5 2 0 8 6
書類名	特許願
担当官	第二担当上席 0 0 9 1
作成日	平成 1 4 年 1 0 月 1 7 日

< 認定情報・付加情報 >

【提出日】	平成14年10月16日
-------	-------------

次頁無



特願 2 0 0 2 - 3 0 1 1 9 1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [ 0 0 0 0 0 5 8 8 7 ]

1. 変更年月日 1 9 9 7 年 1 0 月 1 日  
[変更理由] 名称変更  
住 所 東京都千代田区霞が関三丁目 2 番 5 号  
氏 名 三井化学株式会社
2. 変更年月日 2 0 0 3 年 1 1 月 4 日  
[変更理由] 住所変更  
住 所 東京都港区東新橋一丁目 5 番 2 号  
氏 名 三井化学株式会社